

倉敷支部第3回総会

日時:2007年8月25日(土)

14時より

場所:くらしき健康福祉プラザ

102号研究室

倉敷市笹沖

議題:2006年度の総括と今後の方針について



- 青木正美・ 太極拳講習会
 - 稲葉泰子・ 母親大会、帰国者支援
 - 宇野武夫・ 支部長
 - 金光洋子・ 中国語講座
 - 小林軍治・ 事務局長、帰国者支援
 - 真田紀子・ 副理事長、「9条の会」、新聞編集
 - 竹内和夫・ 理事長
 - 竹内袈裟行・ ホームページ、新聞編集
 - 田中金一・ 青年部、映画鑑賞会、学友会
 - 西森文子・ 料理教室、帰国者支援
 - 三宅英美子・ 料理教室、中国語講座
- (顧問) 嘉松喜佐夫
(監査) 神吉秀哉、砂子 和正

反戦・平和・名作のつどい

映画; ①「カンダハール」

②「アラバマ物語」

8月12日(日) (入場料無料)

岡山市中央公民館視聴覚室

(岡山市小橋町)

時間: ①10時30分(96分)

②13時30分(136分)

平和の波おかやま実行委員会

二〇〇七年度第一回理事会

7月25日(水)午後1時から、民主会館二階の会議室で、6月の総会で選出された理事による、第一回の理事会が開催されました。経過報告の後、議事として新役員の任務分担が確認されました。

日中友好協会
岡山支部

おかやま

題字 萩原田 親

No. 516

2007/8/5

日中友好協会
岡山支部

T704-8255
岡山県武庫3-8-30-513
TEL:086-272-3010
郵便振替口座
01250-0-3835
http://rzhong.jp/
index.html

日中友好新聞

発行所
日中友好協会
〒711-0950 岡山県平岡町日中
高岡21-1-1 電話086-272-3010

岡山県立岡山東商業高等学校2年生に 人権教育講演会

六月十九日、岡山県立岡山東商業高等学校の体育館で、二年生約三二〇人を対象にした、人権教育講演会が開催されました。

講師は、高見原告団事務局長で中国残留日本人孤児からの訴えと題して約七〇分体験を語りました。

通訳は赤澤春香さんが担当しました。高見さんの話しは、一、避難道中の出来事(山中で弟と妹を亡くした。母と父の死。瀋陽の病院での豚小屋生活)二、中国人養父母に引き取られてからの生活(一家の働き手。工場での仕事。結婚後に、養育費を請求されたこと)三、日本に帰国してからの生活(仕事、日本語教育、裁判)四、高校生に伝えたいこと

生徒は、午後の蒸し暑い体育館の床に座ったまま、最後まで話しをよく聞いてくれました。事前の指導(中国残留日本人孤児問題)の解説資料、高見さんの略歴などの配布が行き届いていたと思われます。

次に生徒の感想文を二つと、高見さんへの「礼状」の一部を紹介いたします。

感想文①
中学校で戦争のことについて学習することはありましたが、中国残留日本人孤児については名前だけしか知らなかったもので、今回の講演で本当に貴重なお話を聞くことができました。幼い頃に戦争があり、気づけば中国に残され、その日食べるも

のもほぼない生活が続く毎日。しかも短い間に弟に妹、母親に父親まで失い、悲惨な時代だったと思います。両親が亡くなり兄と二人になり、養父母に引き取られてから少しは良い生活になると思いきや、また戦争でものこいをして過ごす日々。それが自分の運命だと感じ、受け入れ、生きるために職に就き、一日一日を必死に生き続けた高見さん。私はこれまでの話が本当の話であることが信じられませんでした。文章を読むのとは全く違い、実際の体験を通訳を通して生の声を聞くということが、とても見にしみて感じる事ができました。高見さんは55歳で日本へ永住帰国され、まだまだ差別や資金扶助の面など多くの問題があるようです。

岡山県は特に制度が不十分な点が多くあり、一日も早く日本の法律などが改善されるといいなと思います。

最後のお話で高校生に伝えたいこと「社会に役立てる人間になつて下さい」という言葉は短いですが高見さんの70年もの生涯を通して、苦しい時を乗り越えた結果いきついた、私達が高見さんへ生かすための意味ではないかと思えました。

感想文②
高見さんのお話を聞いて、苦労という言葉が外せない人生だったのだなと思いました。最初は難しい内容のかなと思っていましたが、案外そうでもなく、通訳さんも一生懸命に話されていたので、いろんな感情が伝わってきました。

話の内容は驚くことがありすぎて、ついていけない部分もあつたけど、その中でも私が一番驚いたことは、避難道中の山中での出来事です。弟と妹を置いて行き、同じ場所に戻ってしまった時...。服は血だらけで狼か虎に食べられてしまったそうです。想像をはるかに超えていました。ドラマの世界ではなくて現実にあるんだと思うと少し怖かったです。また、一年内で家族4人を失うことはとても辛いと思えました。お父さん、僕を置いていかないで、これからどうすればいいの?という言葉に胸がひきちぎれるほど痛かったです。

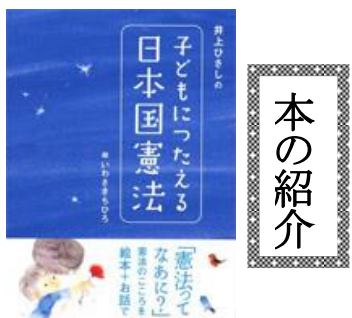
高見さんが最後に伝えた、戦争に反対し、平和で、社会に役立つ人間になつてほしい!という言葉を忘れずに、世界には苦勞して生きている人々がいるということ胸において、生活していきたいです。

家族をもっと大切にしようと思えて思いました。また「中国人」ということで差別するのは間違っていると感じました。日本は中国残留日本人孤児にとつてもっと平等に扱うべきだと思います。経済的な部分もそうですが、人権についてよく考えなければなりません。これからの日本の課題点なので、この話を役に立て、私達が変わってきたいです。



左が高見さん、右が赤澤さん

本を紹介
子どもにつたえる 日本国憲法
井上ひさしの
子どもにつたえる 日本国憲法
絵 いわさきちひろ
講談社 定価952円



日中岡山「9条の会」に参加してくださっている則武さんから紹介されました。その本文の中に、憲法9条が載っています。

日中友好協会岡山支部ホームページ
http://rzhong.web.infoseek.co.jp
メールアドレス
rzhong86@hotmail.co.jp

岡山県立岡山東商業高等学校

人権教育講演会

御講演のお礼

岡山県立岡山東商業高等学校

先日の人権教育講演会に際しましては、御自身の大変辛い体験を本校生徒たちのためにお話し下さり、誠に有り難うございました。

今回の御講演での「避難道中の出来事」や「瀋陽の病院での生活」などのお話は、平成の時代に生まれ育った生徒たちにとって、はじめて耳にする衝撃的な事実だったようです。

お話しの一つ一つを通して、戦争の悲惨さ・理不尽さを、そして人権の大切さを何より雄弁に語りかけていただきました。

さらには、一国の政策によって

強いられた苦難の道を今日まで歩んでこられたお姿から、生徒たちは、漫然と過ごしている自分の日常を見直したり、あるいは、わが国の社会や歴史を、そして自分の生き方を新しい目で問い直すきっかけを与えていただいたように思います。

おかげを持ちまして、他の何物にも代え難い貴重な学習の場とすることが出来ました。これを、改めて心よりお礼申し上げます。

私たち高校教育の場におきましても、過去の真実を、それが痛いものであればあるだけ一層、次の世代へ語り継いでいくことが、よりよい未来を切り開くことに通じる道だと考えておりま

す。

人権教育教職員研修会において

小林軍治

五月二日、岡山県立岡山東商業高等学校大会議室において、人権教育教職員研修会が約四〇人の参加で、開かれました。研修会の目的は、一、中国残留日本人孤児問題の学習を通して、本校人権教育推進の一助とする。

内容は、中国残留日本人孤児の問いかけるもの」と題して、小生が約六〇分間話しました。礼状から、話の内容とどう受けとめられたかを紹介します。

先生には、本当に限られた時間の中で、私は誰なのか？この標語に象徴される孤児たちの帰国後の困難。さらには、その悲劇を生み出すことになった満州開拓

団の政策決定から敗戦、そして戦後の国内・国際政治に至る歴史的過程について、御自身が身をもって体験され、長年この問題に取り組んでこられた先生ならではの話を聞かせていただきました。

研修会の当初の目的である中国残留日本人孤児問題の学習が十分に果たされたというにとどまらず、何よりも先生の熱意と姿勢から、人権が守られていることの大切さを語り伝えること、そして過去の過ちを語り継ぐことの大切さを教えていただいたように思います。既に20年以上も前、西ドイツ大統領の行った荒れ野の40年の演説を、就中、その一節「過去に目を閉ざすものは、現在にも盲目となる」の痛切な思いをかみしめながら、私たちが、日々の教育活動の中で生徒たちに語り伝えるべく微力を尽くしたいと考えております。」

私が高校を卒業して田舎に行ったのは18歳のときでしたが、中学校や高校を卒業すると、当時の中国政府の政策で、いわゆる「下放」、つまり都市部の住民は農村に無理やり強制的に移住させられたのです。

だから、その頃は教育をうんぬんするどころではありませんでした。国語の教科書が廃止され、代わりに使用されたのは「毛沢東語録」で、これは、戦前の教育勅語みたいなものです。英語の科目といえば、覚えさせられたのは一言だけ、long live chairman Mao(毛沢東万歳と。それが文革のときの中国教育の実情でした。

毛沢東が亡くなった後、文革時に辞めさせられた鄧小平さんが1年後に復活して、ちょうど私が大学に入った1978年の12月に「改革・開放」

の号令を出しました。文革にはもう終止符を打ち、これから「改革・開放」をやる」と新しい政策を打ち出したのです。

おかげで、中国の学校教育もやっと落ち着いてきたかのように思えたのですが、郵小平の深圳視察、南方視察をきっかけに、中国は高度成長への道を走りだしました。

1990年代の前半ごろから、中国全土が経済発展を優先視するという風潮になってしまい、学校もいろいろな面で影響を受けて揺れ動く大変な時代になりました。

政治運動はやっと終わりましたが、市場経済の時代に入ったことで、今度は貧富の格差という新たな問題が出てきたのです。これから詳しくご紹介したいと思います。

義務教育と学校の実態

まず、中国の義務教育について、ご紹介したいと思います。

中国の学校は、基本的に日本と同じように、いわゆる「6・3・3制」を採用しています。すなわち小学校6年、中学校3年、高校3年、大学4年と、基本的に変わりません。

しかし、先ほど説明したように、中国の義務教育法のスタートが非常に遅かったです。ちなみに、レジメに「清政府は明治日本の学制に範を求め、日本人教習も大量に招聘した」と書いていますけれども、この学制とは、明治5年(1872)に制定された、言ってみれば明治日本における義務教育法です。

当時の日本では初等小学校4年までの教育が義務付けられていました。今の9年の義務教育を定めたのが戦後になって1947年に制定された「教育基本法」なんです。

それに対して、中国では20年前、1986年4月にやっと義務教育法が制定されるようになりました。中国の義務教育法は、確かに小学校、中学校合わせて9か年の義務教育と明記していますが、日本人から見れば、義務教育とは言えないかもしれません。学費も要るし教科書も有料で、その他雑費の集金もあり

り、義務教育であっても無償ではないのです。

現在、全国の小学生は計1億864万人、中学生は計6214万人にのぼるといふ統計が出されています。法律では、小学校は6年と定められていますが、田舎では小学校が5年しかないというところもあります。

最近、中国政府の公式発表では、義務教育は94%以上の地域で普及していると言っていますが、専門家の研究調査によると、地域間の格差が非常に大きく、特に中国の西部、南部、あるいは北部の貧しい農村地帯において、経済的な理由で学校に行けない、あるいは中途退学した生徒がまだまだたくさんいるようです。

私も毎年、里帰りも兼ねて中国の各地でいろいろ現地調査のようなことをやってきました。

去年は、中国の一番南の方、ミャンマーやラオスと国境を接している雲南省あたりの田舎に行ってきました。が、貧しくて靴も履いてない子どもをよく見かけました。あそこは熱帯ですから、いろいろな果物が採れます。少数民族地域の子どもたちは、観光客や通り掛かる車のドライバーを相手に、道端でいろいろな果物を売って家計を助けているようでした。観光地に行くと、子どもたちがすぐに一緒に与真を撮りまじょう。1元だけいいよ」などと集まってくる。

そのような貧困地域では、義務教育が普及したとはまだ言えません。

次回の新聞送付作業は、8月13日(月)午後1時半、民主会館2階で行います。前回お手伝いくださった方です。

小林和製
小竹内井
竹内坪

現代中国の教育事情

②

山陽学園大学教授 班 偉

1949年10月1日、中華人民共和国が成立します。

当初、ソ連一辺倒という外交政策をとっていた中国政府は、ソ連の教育システムをモデルにして中国の学校を改造しようとしていました。

しかし、それがうまくいかず、やがてさつきお話ししたように1966年に文化大革命が勃発しました。それからが大変でした。

ブルジョア教育を廃止せよ! 大学なんか要らない! 大学で学ぶよ

りは、牛の使い方や田植えのやり方を農家の人に教えてもらった方がましだ」という毛沢東の鶴の一声で、中国の大学は麻痺状態に陥り、大学入試も中止されました。

義務教育の現場では、修学年限の短縮が行われ、小学校はもともとも6年ですが、6年を5年に、それから、中学校、高校をそれぞれ2年にしたのです。もつとひどいことに、勤労奉仕」を強いられ、教員も生徒も田舎に移されました。

短縮が行われ、小学校はもともとも6年ですが、6年を5年に、それから、中学校、高校をそれぞれ2年にしたのです。もつとひどいことに、勤労奉仕」を強いられ、教員も生徒も田舎に移されました。